

私は修士課程の一年次から博士課程の修了まで大西さんにご指導いただき、博士課程を修了して以降は共同研究者として大西さんと関わってきました。

院生時代、大西さんからは研究者としての所作や心構えなどを細かくご指導していただきました。それらのご指導は私の研究者としての根幹を形成しています。大西さんの言葉を思い出し、今の自分はそれをできているかと自問自答することもしばしばです。大西さんが研究者として見せてくれた姿の中でもとりわけ尊敬し憧れている部分として思い浮かぶのは、大西さんが物理や物理を通じた人との関わりを非常に楽しんでいただけたところだと思います。時に朗らかに、時に眉間にしわを寄せ、また時には怒涛のような勢いで話す大西さんほど、表情豊かに物理を楽しんでいる人を私はまだ他に知りません。そんな大西さんとの議論は和やかで、大西さんの寛大さもあって、時には整理されていない意見や素朴な考えを伝え、大西さんを困らせることもありましたが、大西さんはそんな未熟な私にいつも真摯に向き合ってくれました。大西さんのように物理を楽しみ、それを周囲にも波及させる研究者になることは私の目標です。

2021年4月に大学院を卒業してから2022年2月までの1年弱、私は基礎物理学研究所の非常勤研究員として大西さんの下で働いておりました。大学院卒業後、元々私は中国のFudan大学で雇用されることが決まっていたのですが、歴史的なCOVID-19の流行による渡航制限があり、即時の中国渡航が不可能になりました。途方にくれていた私に、1年までならば基礎物理学研究所で、大西さんの科研費を使い雇用することができると助け舟を出してくれました。このご恩は一生忘れません。さらに、2022年2月に渡航制限が緩和された際、私はすぐに中国に渡るか、残り1ヶ月であった基礎物理学研究所での契約を全うしてから渡航するか迷っていました。その際に大西さんは「状況はいつどのように変わるかわからないから行ける時に行くべきだ」とおっしゃいました。そして、結果的にこの助言は完全に正しいものでした。2022年3月から、Fudan大学のある上海では、数ヶ月に渡るロックダウンが始まることとなりました。もしも、2022年3月まで待ってから渡航をする決断をしていたらと思うと今でもゾッとします。大西さんの的確な助言によって私は職を途切れさせることなく無事中国に渡ることができたのでした。

私が大西さん受けたご恩は数えきれません。研究者として成長した姿を大西さんに見せることが恩返しであると信じ、そのために邁進することが私の研究者として働くモチベーションの一つでした。その機会はもう永久に訪れないというのは心残り以外の何物でもありません。しかし、これからは大西さんの弟子として恥じない研究者であり人間になることを心に、歩んで行きたいと思います。大西さん、どうか安らかに眠りください。

松田 英史 (Fudan University)